

救急車が早く到着する ための方策は

石崎 誠子議員



直近の消防署が出動できるよう協議する
消防長



▲救急車は本署（西保町）に2台、分署（鷹場町）に1台配備

問 永和地区は他の地域に比べ消防署から遠距離にあり、救急車到着までに時間がかかると住民は感じている。永和台団地で約20分かかった事案があるが、要因と対策は。

答 消防本部に配備の救急車2台が別の事案に出動し、消防署分署に配備の救急車が現場に向かったことが要因ではないか。こうした場合にも、現場へ移動中に情報収集や医

療機関と情報共有するなど、医療機関受入までの時間短縮に努めている。

問 管轄外の一番近い消防署から、直接出動を可能とする協定を締結できないか。

答 個別に協定を締結することは考えていないが、消防広域化を見据え、災害場所から一番近い消防署が出動できるよう検討を進めていく。

問 より早く救急車が到着できるよう、永和地区をはじめ必要とされる地域に消防署の出張所を設置できないか。

答 現在の人員、車両等により対応可能である。

問 「より近い場所」という住民の思いもあり、出張所設置については検討してほしいが、救急車がより早く到着するための方策は他に何かあるのか。

答 海部地域、名古屋市、瀬戸市、尾張旭市が一体となって「指令の共同運用」を令和7年4月から開始する予定。将来的には車両の運用を含めた広域化が必要。市消防本部としては、直近の消防署が出動できるように、今後も継続して協議する。

中学校の制服 選択制導入へ

問 現時点での方向性は。

答 令和6年4月より、市立中学校6校全ての新生・在校生を対象に期間を定めず、現在の詰め襟学生服やセーラー服に加えブレザー等の新制服を選択肢のひとつとして導入する。

問 デザインは全校統一か。

答 市内全中学校統一デザイン。ワッペンやボタン・ネクタイ等の附属品で学校の違いを出す。